

令和3年9月1日

第29回 「芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会（書面開催）」結果概要

○期 間 令和3年6月7日（月）～6月14日（月）

○形 式 書面

○内 容 1 報 告

- (1) L R Tの整備等に係る取組状況について
- (2) 整備効果及び需要の変化の把握について

【主な発言の要旨】

1 報 告

(1) L R Tの整備等に係る取組状況について・・・資料1

- ・ 委員等からの意見は特になく、内容について了承

(2) 整備効果及び需要の変化の把握について・・・資料2

【森本委員】

- ・ 整備効果について、富山の場合、開業後に大きな変化が発現している。宇都宮市においても、現在示しているものはあくまで期待値を反映した潜在効果であって、本来の整備効果は開業後に大きく現れると考えられる。
- ・ 整備効果については、開業後においても継続的に計量化を行いつつP D C Aサイクルによる検証を続け、市民に結果を公開し透明性を図っていくことが重要である。
- ・ 需要推計については、コロナ禍の現在の状態で行っても正確な予測は極めて困難である。ワクチン接種が一通り行き渡り、人々の意識が平常時に近いところまで戻った状態で正確なデータを取るべきである。

【事務局】

- ・ L R Tの整備効果については、今後、専門的な検討組織を設置し、更なる整備効果の抽出や確認すべき項目の選定、効果を適切に評価するための検討等に取り組んでいきたいと考えており、引き続き、検討委員会の委員の皆様の御協力をお願いしたい。
また、L R Tの多岐にわたる効果については、効果の発現時期が異なることから、継続的に検討を行っていく必要があると考えており、開業後の効果を含め、整備効果の検証を進めたうえで、それらを市民・町民等に分かりやすく示していきたいと考えている。
- ・ 需要予測については、今後のワクチン接種の状況などを注視しながら、人の動きがどのように変化していくかを長期的に見定めていく必要があると考えており、引き続き、社会動向等の変化を見定めつつ、人の動きの変化の把握等に取り組んでいく。

【岸井委員】

- ・ 現在はCOVID-19の影響を受けて全国的に行動が厳しく制約されている。今後の需要や効果の推計にあたっては、「現在が極めて特殊な状況の下にある」ことを十分に理解した上で検討することが必要である。また、当該地域だけの数値で判断すると全国的な大きな傾向を見落とすこととなりかねないため、全国的な傾向の変化なども加味して検討を進めるべきである。

【事務局】

- ・ 需要予測については、今後のワクチン接種の状況などを注視しながら、人の動きがどのように変化していくかを長期的に見定めていく必要があると考えており、ご指摘の全国的な傾向も含め、引き続き、社会動向等の変化を見定めつつ、人の動きの変化の把握等に取り組んでいく。

【望月委員】

- ・ 整備効果の検討については、宇都宮市や芳賀町の目指すべきまちづくりとの整合を考え、確認すべきデータの項目の選定を行い、開業前後で比較できるようにすべきである。このため、
 - (1) 例えば沿線地域の活性化、定住人口の増加等の効果を分析する際、その前提として、目指す都市構造の実現に寄与しているかという観点が必要で、定住人口や地価の変化を評価するにあたっては、LRT沿線を一体としてとらえるのではなく、既成市街地、市街化調整区域と分けて分析し、居住を誘導すべき区域に変化が現れているかどうか分かるようにすべきである。
 - (2) 宇都宮駅東側だけでなく、西側の整備も実現した際に、宇都宮市の都市構造にどのような影響が出るのかが重要であり、西側の整備も含めた整備効果の検討も視野に入れて考える必要がある。
- ・ 現在のコロナ禍の状況は一過性であるので、現状のみで、需要が減ると判断するのは早計である。
- ・ 将来の需要予測は、アフターコロナでの需要の構造的な変化を慎重に見ていく必要がある。沿線土地利用の変化や、沿線工業団地等の状況を長期的に見ていくことは必要と考える。

【事務局】

- ・ LRTの整備効果については、今後、専門的な検討組織を設置し、更なる整備効果の抽出や確認すべき項目の選定、効果を適切に評価するための検討等に取り組んでいきたいと考えており、引き続き、検討委員会の委員の皆様の御協力をお願いしたい。
整備効果の検討にあたっては、委員ご指摘のとおり、既成市街地と市街化調整区域とを分けて分析するなど、目指す都市構造の実現への寄与についても把握していきたいと考えている。

また、今後、駅西側LRTの導入に向けた各種調査・検討を進めるなかで、駅西側も含めた整備効果についても検討していく。

- ・ 需要予測については、今後のワクチン接種の状況などを注視しながら、人の動きがどのように変化していくかを長期的に見定めていく必要があると考えており、引き続き、社会動向等の変化を見定めつつ、人の動きの変化の把握等に取り組んでいく。

【大森委員】

- ・ 費用便益分析によるB/Cについては、マニュアル通りに算出することになるが、LRTの効果には、定量化・貨幣化できないものも含めた様々な効果が考えられるため、検討した方がよい。
- ・ 沿線の動向の変化について、定住人口の推移については、市街化区域と市街化調整区域を区別したほうが良いのではないかと考えている。
- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大により人の動きが制限されており、このような状況がいつまで続くのか見通せない中で需要予測を行う場合には、多数のシナリオを設定した上で需要予測を行う必要がある。
- ・ 流動人口の変化については、スマートフォンの位置情報などによるビッグデータを活用し、分析しながら情報を集めることもできるのではないかと考えている。

【事務局】

- ・ LRTの整備効果については、今後、専門的な検討組織を設置し、更なる整備効果の抽出や確認すべき項目の選定、効果を適切に評価するための検討等に取り組んでいきたいと考えており、引き続き、検討委員会の委員の皆様のご協力をお願いしたい。

また、貨幣換算可能な効果のほか、貨幣換算が困難である様々なまちづくりなどの効果が期待できるところであり、それらを総合的に勘案しながら、引き続き整備効果の検討を行っていく。

- ・ 沿線の動向の変化については、委員ご指摘のとおり、市街化区域と市街化調整区域を分けるなどの方法による定住人口の推移等についても把握していきたいと考えている。
- ・ 需要予測については、今後のワクチン接種の状況などを注視しながら、人の動きがどのように変化していくかを長期的に見定めていく必要があると考えており、引き続き、社会動向等の変化を見定めつつ、ビッグデータの活用等の検討を含め、人の動きの変化の把握等に取り組んでいく。

【各委員、了承】

以上